

ベトナム現地情報（2021.09.22）

ジャパン証券 北山亨

第 15 回「ベトナムの経営者」

松下幸之助、本田宗一郎、盛田昭夫…。昭和に活躍したかの名経営者は、一企業を世界的な企業へと成長させました。成長中のベトナムにも才覚のある経営者はたくさんいます。今回は、その中でもベトナムの著名な経営者にスポットを当てていきます。

Vingroup の創業者



ベトナム最大のコングロマリットである Vingroup（ビングループ）。その創設者である Pham Nhat Vuong 氏は、ベトナムで最も有名な経営者の一人です。モスクワの大学を卒業後、1993 年に隣国のウクライナで Technocom Group を設立、同地でインスタント麺の生産を開始しました（2009 年に社名が Vingroup に変わり、本社がハノイに移りました。なお同時期の 2010 年にウクライナ事業はネスレに売却されています）。ベトナムでは 2001 年にリゾート開発を手掛ける Vinpearl、2002 年に商業施設を手掛ける Vincom を設立しました。Vincom（VIC）は 2007 年に、Vinpearl は 2008 年にそれぞれホーチミン取引所に上場。その後 2012 年に Vincom は Vinpearl と合併し、Vingroup に商号変更しました。

同氏は 2013 年から 9 年連続でフォーブス誌が発表する世界のビリオネアランキングに選出されています。フォーブスが発表した 2021 年の保有資産額は 73 億米ドルと、ベトナムでトップ、世界でも 344 番目の大きさです。

航空業界の紅一点



Vietjet Air（ベトジェットエア）の最高経営責任者（CEO）を務め、HD バンクの副会長である Nguyen Thi Phuong Thao 氏はベトナム、そして東南アジア地域で最初の女性ビリオネアです。80 年代後半、同氏はモスクワの大学に在学していました。当時東ヨーロッパで物不足だったのをチャンスととらえ、日用品の輸入販売をする

SOVICO Holdings を設立。また 2007 年に格安航空会社の Vietjet Air を設立し、2011 年から運行が開始しました。



新興コングロマリットの総帥

Trinh Van Quyet 氏は新興コングロマリットである FLC Group (FLC グループ) の創業者であり、バンクーバー航空の CEO も務めています。大学卒業後に法律事務所を開設し、最初は企業のコンサルタントを請け負っていました。コンサルタントをしていく中で案件の一つであった不動産市場の成長性に惹かれ、自ら不動産業を始めました。その後、同氏が設立した FLC Group は積極的な M&A を繰り返し、FLC ファロス建設 (ROS)、FLC 鋳業投資 (AMD)、CFS 輸出入貿易投資 (KLF)、HAI 農業 (HAI) といった子会社を傘下に収めるコングロマリット企業に成長しています。



国内消費財メーカーの巨人

Masan Group (マサングループ) の創設者、会長である Nguyen Dang Quang 氏はテクコムバンクの初代副会長も務めました。90 年代にモスクワに留学した際に、現地のベトナム人向けにインスタント麺を販売する事業を起こしました。生産工場を建てるなど事業は成功を収めました。同氏をメディアは「ロシア人にインスタント麺とチリソースを広めた人」と呼びました。ベトナムに帰国してからは醤油や魚醤で有名な「CHIN-SU」ブランドの製造を開始。2019 年には Vingroup から小売チェーンの「VinMart」を買収し、同社の競争力を強化させました。



ベトナムの鉄鋼王

Tran Dinh Long 氏は、Hoa Phat Group (ホアファットグループ) の会長です。同社は 1992 年に建設機械を扱う専門業者から始まり、その後家具、鉄鋼、不動産など事業を拡大させてきました。現在では国内最大の鉄鋼メーカーとして業界に君臨しています。創設メンバーである同氏は、1996 年から現在まで会長職を務めています。

不動産業界のゴッドマザー



Nguyen Thi Nga 氏は、投資グループ会社 BRG Group の会長で、SeABank（シーバンク）の副会長も務めています。1993年に設立された BRG Group は、いわゆるコングロマリット企業で、不動産を中心に幅広い事業¹を展開してきました。代表的なものではジャック・ニコラス デザインが設計したゴルフ場の運営や、ヒルトンやマリオットといった有名ホテルと提携したホテル経営があります。また同社は多くの日本企業との事業提携を行っています。例を挙げると、サンリオとの巨大テーマパークの建設計画や、住友商事とのスーパーマーケットやスマートシティなどの合弁事業、ホンダの自動車販売店の運営など提携は多岐にわたります。

また同氏は商業銀行の SeABank で 2007 年から会長職を務めていましたが、2018 年に愛娘の Le Thu Thuy 氏に会長職を譲りました。その後、SeABank は 2021 年 3 月にホーチミン取引所に上場を果たしています。

旧ソ連留学組 大物経営者と旧ソ連の繋がり

ここまで 6 人の経営者を見てきましたが、そのうち 3 人にはある**共通点**があります。それは 80 年代後半から 90 年代にかけ旧ソ連（現在のロシア、ウクライナ等）に留学し、現地でビジネスを立ち上げ、その後ベトナムで事業を始めたことです。その背景として旧ソ連が同じ共産圏であるベトナムから、多くのベトナム人留学生を受け入れていたことが関係しています。また 80 年代以降、ベトナムから海外へ労働力が輸出されるようになり、多くのソ連企業がそうしたベトナム人労働者を受け入れました。それと同時に現地では多くのベトナム人コミュニティが生まれ、ソ連崩壊後もコミュニティの一部は残りました。2015 年に旧ソ連諸国を中心に発足したユーラシア経済連合（EAEU）がベトナムと FTA（自由貿易協定）を結んだのもこうした歴史的な結びつきがあります。

またベトナムでは、Vingroup や BRG Group といった不動産業を中心としたコングロマリット企業が存在感を示しています。このようなコングロマリットが誕生した背景として、ベトナムの「土地神話」があります。市場経済に移行したベトナムでは、土地価格の上昇が続きました。地価上昇の恩恵を受けた不動産会社の中には、事業を拡大させ巨大なコングロマリットに成長する企業が現れました。

¹ 不動産、小売、エンターテインメント、ホテル、旅行、自動車、ゴルフ、製薬、貿易、農業

ホーチミン取引所に上場する代表的な上場会社と主要株主

ベトナムの上場会社は国営企業が多いですが、創業して一代で大企業に成長した民間企業もたくさんあります。今回紹介した企業と経営者は、その一部です。次のビンググループを見つけるのもベトナム株式投資の醍醐味でしょう。

時価総額 No.	ティッカー	銘柄名	時価総額 (兆円)	主要株主 (保有比率 %)
1	VCB	ベトナム中央銀行	1.76	ベトナム中央銀行 (74.80%) みずほ FG (15.04%)
2	VHM	ビンホームズ	1.73	ビンググループ (69.66%)
3	VIC	ビンググループ	1.69	ベトナム投資グループ (33.13%) Pham Nhat Vuong 氏 (25.90%)
4	HPG	ホアファットグループ	1.08	Tran Dinh Long 氏 (26.08%)
5	VNM	ビナミルク	0.87	国家資本投資会社 (36.0%)
8	MSN	マサングループ	0.74	マサン JSC (31.38%)
19	VJC	ベトジェットエア	0.32	Nguyen Thi Phuong Thao 氏 (8.76%) SOVICO (7.59%)
27	SSB	シーバンク	0.23	Le Thu Thuy 氏 (2.73%) Nguyen Thi Nga 氏 (0.09%)
74	FLC	FLC グループ	0.03	Trinh Van Quyet 氏 (30.34%)

(出所)Bloomberg、写真は全て会社の公式ホームページから

図表のデータは 2021 年 9 月 15 日時点のもの

ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようにお願いいたします。